

書評 明日からできるエビデンス構築 スコーピングレビューが短期間で読める・書ける本

犬 丸 杏 里

Book review on How to Read and Write Scoping Reviews: Rapid Mastering for Evidence-Building

Anri INUMARU

スコーピングレビューは、2005 年に Arksey と O'Malley によって方法論が提唱された比較的新しいレビュー方法である。本書は、医師である片岡氏と、理学療法士である北川氏が、自身の経験を踏まえたスコーピングレビューの方法を具体的に述べている。2024 年 2 月に MEDICAL VIEW 社が出版し、私が知る限りスコーピングレビューについて日本語で解説された初めての本である。北川氏が執筆に関わった近年のスコーピングレビューには、「Fascial manipulation for musculoskeletal disorders: A scoping review」(2024)、「Usefulness of muscle echo intensity for evaluating functional performance in the older population: A scoping review」(2023) など、リハビリテーションに関するレビューが多いが、医学分野にも投稿されている。北川氏は、年に数本のレビューを執筆されており、レビューを行う際には参考になると考える。

スコーピングレビューは、臨床的・学術的な疑問が、科学的にどこまで明らかになっているのかを網羅的な情報収集を通じて明らかにするために実践されるレビューである。ナラティブレビューよりも手順が厳格である。また、システムティックレビューとは異なり、研究の質は論じない。PubMed で scoping review と検索すると、57,000 件以上ヒットする。nurs* を AND 検索しても 8,500 以上がヒットする。2018 年にスコーピングレビューの報告ガイドラインが提唱されてから、年間報告数が約 4 倍に増加している。倫理審査がいらないという手軽さからも、今後さらに報告数が増加すると予測される。

本書を読むきっかけは、私が文献レビューをしたい

と考えた際に、同僚から本書を勧められたことであった。説明書ではあるが、図表が多用されているため 203 頁ながらも読みやすそうという印象が強かった。表紙には緑が多用されており、文字も 11 ポイント程度で大きく、目に優しい。そのため、文章に慣れない初学者から、老眼の入ったスコーピングレビュー初学者にもお勧めしたい。

本書は 4 章から成る。「第 1 章スコーピングレビューとは何か」では、歴史とその他のレビューとの違いについて述べられている。「第 2 章スコーピングレビューの読み方」は、本書の主要目的の 1 つである読み方について、背景・方法・結果・考察に分けて、実際の論文を示しながら述べられている。「第 3 章スコーピングレビューの書き方」は、本書の主要目的である書き方について、全体像・予備検索・レビューテーマの協議など、13 項目に分けて、図表をふんだんに用いながら述べられている。検索エンジンや、スクリーニングソフトの使い方も書いてあるため、初めて使用する人にも理解しやすい。「第 4 章スコーピングレビューの公表から出版まで」では、初学者に向けて、学会発表や論文執筆までのツールの使い方なども丁寧に述べられている。

本書を読むことによって、初めてレビューをする人には分かりやすく進めることができる。しかし、ところどころに、「スコーピングレビューの経験のあるメンター」に相談、検討などという記述が出てくる。そのため、本当にこれで良いのか疑問を持ちながら進めることになる。ここが 1 つ目の課題となる。ここに関しては様々な学会でセミナーが開催されているため、自

ら足を運んで解決していくことが望まれる。また、スコーピングレビューには2人以上の研究者が必要であるため、自分以外の協力者を探すことも1つの課題となる可能性がある。しかし、違う領域の研究者でもお互いが協力者となりうるため、積極的に声をかけて協力を求めている必要があると考える。

本書の中にも述べられているが、本書の関連文献として、2つは挙げておきたい。スコーピングレビューに関する最新ガイドライン (Peters MDJ et al, 2020) や、スコーピングレビューのための報告ガイドライン (Tricco AC et al, 2018) は、スコーピングレビューを進める上で、必読論文になると思われる。文献レビューに興味がある方は、本書を読みながら、スコーピングレビューに取り組んでみてはいかがだろうか。

文献

- Isaji, Y., Sasaki, D., Kon, Y., Kurasawa, Y., & Kitagawa, T. (2024). Fascial manipulation for musculoskeletal disorders: A scoping review. *Journal of Bodywork and Movement Therapies*, 40, 23–29. <https://doi.org/10.1016/j.jbmt.2024.04.006>
- Kitagawa, T., Nakamura, M., & Fukumoto, Y. (2023). Usefulness of muscle echo intensity for evaluating functional performance in the older population: A scoping review. *Experimental Gerontology*, 182, 112301. <https://doi.org/10.1016/j.exger.2023.112301>
- Peters MDJ, Marnie C, Tricco AC, Pollock D, Munn Z, Alexander L, McInerney P, Godfrey CM, Khalil H. (2020). Updated methodological guidance for the conduct of scoping reviews. *JBIM Evid Synth*, 18(10):2119-2126. doi: 10.11124/JBIES-20-00167. https://journals.lww.com/jbisrir/fulltext/2020/10000/updated_methodological_guidance_for_the_conduct_of.4.aspx

Tricco AC, Lillie E, Zarin W, O'Brien KK, Colquhoun H, Levac D, Moher D, Peters MDJ, Horsley T, Weeks L, Hempel S, Akl EA, Chang C, McGowan J, Stewart L, Hartling L, Aldcroft A, Wilson MG, Garritty C, Lewin S, Godfrey CM, Macdonald MT, Langlois EV, Soares-Weiser K, Moriarty J, Clifford T, Tunçalp Ö, Straus SE. (2018). PRISMA Extension for Scoping Reviews (PRISMA-ScR): Checklist and Explanation. *Ann Intern Med*. 2;169(7):467–473. doi: 10.7326/M18-0850. https://www.acpjournals.org/doi/full/10.7326/M18-0850?rfr_dat=cr_pub++0pubmed&url_ver=Z39.88-2003&rfr_id=ori%3Arid%3Aacrossref.org

明日からできるエビデンス構築 スコーピングレビュー
が短期間で読める・書ける本

監修：片岡祐貴，編集：北川孝

出版社：MEDICAL VIEW

発行日：2024年2月10日

ISBN:978-4-7583-2258-4

